多元横浜読書会　　21－5－22

清水　淹

＜今回＞294回目　2021年5月28日（金）15時～18時　603会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」 再読　p311、阿蘇山と如意宝珠　　より

＜前回＞293回目（21－5－14）出席者　8名

資料（21－05－14－1）前回のまとめ（清水）

（21－05－14－2）基シ城跡（筑紫野市教育委員会）（高山）

A 報告　今日は1時間少ないので、意見交換はポイントだけにして次回にする。冠位12階と納音の問題提起があった。

B資料　2）福岡の鴻臚館遺跡を訪問した時入手した資料、カラーで分かりやすい。貴国問題と基山、基の地名太宰府付近の地名問題を結びつけるのは疑問が若干残ると提起された。朝鮮半島の人は、北九州の権力集団をキヰ（貴）国と呼んだのか。多利思北弧は自国を大委国と呼んだ。

C読書

1）隋書倭国伝と日本書紀の比較。

A 開皇20年（600年）　倭国が通行してきた。　日本書紀には相当する記事がない。（何故ないか）

B 大業3年（607年）　隋書では「日出処天子」の国書を提出、沙門数十人を派遣。

日本書紀には推古15年（607年に相当）国書はないが妹子と通事福利を派遣

C 大業4年文林郎裴世清を倭国に派遣、拝謁。日本書紀では同年？3月妹子帰国。6月裴世清筑紫に至る。8月難波吉士雄成を遣わし裴世清を召す。隋の国書を上程し、9月裴世清帰国、妹子と学生8人を伴わせる。

D 推古22年犬上御田鍬を派遣、1年後帰国。（隋書にはない）（何故ないか）

2）比較　①派遣時期の違い。②大業3年（607年）と推古16年は同年としても内容が異なる

3）①一番肝心の「日出処天子」の書は隋書倭国伝にはあるが、日本書紀にはない。

②多利思北弧派遣の使節団には大量の沙門を伴った大使節団だったのに対して、日本書紀は裴世清帰国につけて、8人を同行させている。

③倭国は東西二人の天子と対等を主張。推古は東の天皇，西の皇帝と申して一歩譲っている。（天皇称号は唐3代目高宗が自ら名乗った、北朝の蛮族たちはしばしば天王を名乗った）。

④応接人名が異なる。阿輩臺、可多吡、古田以前の古代史学者は日本人名に無理に当てはめを行っている。（倭の5王と同じ）（それに引き換え）漢字音は正確である。都斯麻、一支、竹斯など。

⑤倭国伝では「遂に絶つ」とあるのに対して推古紀では 22 年に犬上御田鍬らが派遣されている。隋書の倭国は日本書紀と明らかに違う国を指している。

4）最初の遣使を 12 年ずらして唐建国時にあわせる。日本書紀の小野妹子を大唐に派遣すると書いているのを重要視する。この本ではこの論はまだ出てこない。日本書紀を書いたころは当然隋書を見ているが日出処天子は身に覚えはないからかけない。ただ誇らしげに見ていたから、のちの世の人に誤解してもらえるように年をずらして、近畿政権の派遣年次をずらせた。（日本書紀は手元の記録には忠実であったが、年次は中国史に合わせようとした。）後年の読者は学者を含めて日本書紀編者の意図にはまったのであろう。

次回日程　2021－6－11日（金）16時から18時　かながわ労働プラザ第9会議室

—6－21日（月）15時から18時　かながわ労働プラザ第9会議室

—7－5日（月）　15時から18時　かながわ労働プラザ第9会議室